

8月16日(金)の午後8時より五山の送り火です。関西ではテレビで実況中継されますが、その他の地域の先生方もニュース番組等を見たことがあるでしょう。

午後8時に東山如意ヶ嶽の大文字に点火され、その後は市内から見ると反時計回りに順番に松ヶ崎の妙と法に、続いて西賀茂の舟形、北山の左大文字、に5分毎に点火され、そして嵯峨鳥居本の鳥居形に8時20分に火が入ると送り火も最高潮となります。今では京都市内もビルが立ち並び五山が全て見える場所は限られていますが、鴨川や今出川通り、丸太町通りは送り火を見る人であふれ交通は完全にマヒします。

ネオンと違って、火床に積んだ薪に点火するので着火直後は赤々と燃え盛り、その文字や形を夜空にはっきりと浮かび上がらせ、真夏の世の夢を思わせる盛夏の風物詩にふさわしい荒々しさを見せてくれます。しかし、30分もすると火床の薪が燃え尽きて、最初に火のついた大文字から徐々に文字や形が崩れてきて、まさしく盛者必衰の理をあらわす、の詞とおりの美しくも儂い、日本人の人生観の琴線に触れるお盆の催しであることが分かります。祖先の霊を迎え、亡くなった家族を思い出しながら、来年もまた皆で元気に送り火が見られるように、と祈る瞬間でもあります。

20年くらい前までは点火時にも一般の人が大文字山に登って点火の様子を見ることができましたが、今では当日の午後1時以降は関係者以外入山できません。もちろんこの日以外の登山は自由で、30分かからないで市街の絶景が得られることから多くの市民が健康ハイキングに利用しています。

さて、第24回学術大会では9月21日(土)の早朝に大文字トレッキングを行います。寺社仏閣観光も楽しいですが、ちょっと趣の異なるエクスカージョンに参加してみても如何でしょうか。市内展望だけでなく、送り火のわずか1か月後ですので火床にはまだ薪の燃えカスも残っていてリアルな送り火が実感できるでしょう。これもまた早起きは3文の得です。

わずかですが余裕がありますので御希望の方は大会事務局まで急いで申し込んで下さいね。